

策定年月	令和5年7月
見直し年月	

大豆国産化プラン

産地名：福岡県みやま市

（作成主体：農事組合法人本郷）

1. 大豆生産の現状と課題及び課題解決に向けた取組方針

○現状と課題

- ・施設園芸が盛んな地域であり、園芸品目にとっても主要害虫である「ハスモンヨトウ」対策を必ず実施している。
- ・同じほ場で3年に1度大豆を栽培するようにブロック分けを実施、生産量は27.6トン。
- ・一部のほ場では、地力低下による収量低下と畑地雑草の増加が問題となっている。

○課題解決に向けた取組方針

- ・播種前除草を徹底し、地力低下を軽減するため、麦・水稻のわら鋤き込みと、土壌改良資材の散布を実施する。
- ・主要害虫である「ハスモンヨトウ」対策を引き続き実施し、発生密度に関わらず、生育期間中2回を徹底する。
- ・令和6年から収量性の高い「ちくしB5号」への品種転換を図り、令和7年に作付面積を15.5haまで拡大。
- ・ブロックローテーションによる田畑転換に加え、雑草に対する薬剤防除と機械除草を組み合わせた防除を実施する。

※ 麦・大豆生産における課題(湿害対策、適期播種、土づくり、連作障害対策等の必要性等)を具体的に記載すること。

※ 課題解決に向けて取り組む内容及び今後の生産拡大に向けた方針を具体的に記載すること。

2. 産地と実需者との連携方針

(農)本郷で生産した「フクユタカ」は、非公開、非公開、非公開
非公開へ27.6トン販売。

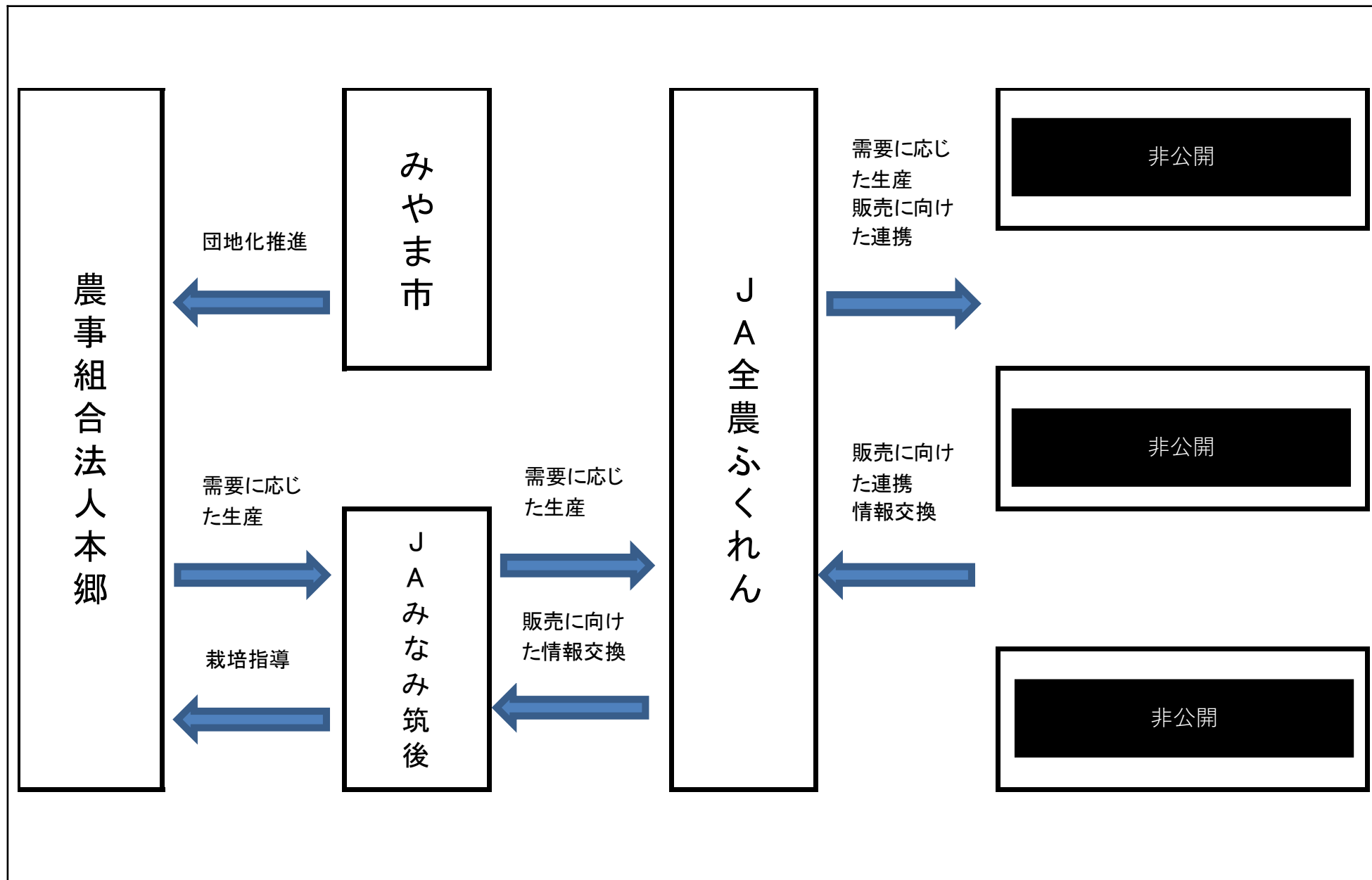
※実需者との連携方針を記載
管内JAの大豆部会の代表がJA全農ふくれんが主催する懇談会へ出席。その後、実需者の要望に応えるため、JA全農ふくれん大豆部会で実施される研修会に参加し、その内容を(農)本郷役員会や総会にて、構成員に情報を共有。

国産大豆取扱量 単位:t

品種名	産地取扱量		実需者取扱量	
	現状(令和4年度)	目標(令和7年度)	現状(令和4年度)	目標(令和7年度)
フクユタカ	27.6		27.6	
ちくしB5号		34.2		34.2

※ 産地と実需者については具体的な名称を記載すること。
※ 麦の実需者は、麦を原料とした加工品等の製造を業とする者(製粉会社、製パン会社、製麺会社等)とする。
※ 大豆の実需者は、大豆を原料とした加工品等の製造を業とする者、大豆の販売を業とする者及びこれらの者が組織する法人その他の団体とする。
なお、販売を業とする者を実需者とする場合は、その者が販売する先(最終実需者)について、代表的な者の名称を記載すること。
※ 産地と実需者それぞれの国産麦・大豆取扱量の現状とおおむねの目標値を記載すること。

3. 大豆の国産化に向けた推進体制及び各関係者の役割



※ 産地と実需者との連携について、図等を用いて明示すること。

※ 取組の中心となる農業者等を必ず位置付けること。